



# ～ 一歩前進の未来へ ～

知ってほしいなあ！わたしたちの障がいのこと

～はじめに～

障がいのある本人や障がいのある子を持つ保護者等で組織する「大田原市地域自立支援協議会当事者部会」におきまして、広報紙を発行しています。

この広報紙を通して、市民の皆様には様々な障がいについて知ってもらい、差別や偏見が少なくなってもらいたいと思います。

○知的障がいってなに？

知的障がいは、脳の一部に障がいが生じたことが原因で起こると考えられています。知的な遅れがあり、そのために言葉を使ったり、記憶したり、抽象的なことを理解したりすることが難しいのです。

また、社会の仕組みや流れにうまく適応することが苦手で、暮らしにくさを抱えている人もいます。でも、知的障がいだからなんでもできないというわけではありません。一人一人の違いに合わせて必要な支援や言葉かけによって、できるようになることもたくさんあります。

## 抽象的な言葉は理解しにくい

たとえば、「コップにちょっと水をいれて」の「ちょっと」という言葉は理解できません。どれだけ水をいれたらいいのかわからず、不安になってしまい、できないことがあります。

どうしたらいい？

### 具体的に伝える

コップに印をつけて「この印まで水をいれてきて」というように具体的に示したり、身振りや絵などを見せて話すと伝わりやすくなります。



## 興味のある物しか見えていない

たとえば、キラキラ光るものが好きな人は、電車の中でキラキラするアクセサリをつけている人を見ると、その物しか見えず、触りにいってしまいます。相手が迷惑な顔をしていても全く気がつきません。

どうしたらいい？

### はっきり伝える

周囲の人に迷惑をかけている場合は「やめてください」と具体的に言葉ではっきり伝えてください。あいまいな言い方や表現では伝わりにくく理解できません。



## 手先が不器用

道具を使うのが苦手な人が多いです。ひもがうまく結べない人や、字や絵がうまく書けない人もいます。指先を少しあまらせて軍手を数枚はめると指先が不自由に感じます。それが障がいのある人が感じている感覚と言われています。

どうしたらいい？

### ゆっくりゆったり見守る

不器用な人は上手にできなくて、失敗してしまうことが多いです。まずは指先の不器用さを理解し、ゆっくりゆとり取り組めるような言葉かけをしてください。また、声をかけることで気が散ってうまくできない人もいます。そういう人には、黙って見守るようにしてください。



【知ってほしい！聞いてほしい！コーナー】

## ○されると嫌なこと、嬉しいこと○

散歩中、気持ちが高揚して言葉にならない声を出したり、手をひらひら揺らすことがあります。周りの人はちょっとびっくりするかもしれませんが、怖い顔で見たり、叱ったりしないでほしいです。

笑顔で「おはよう」、「こんにちは」、「元気だね」と挨拶をしてもらえると嬉しいです。



○統計○【手帳保持者：令和3年3月31日現在、大田原市の人口：令和3年4月1日現在】

・療育手帳を持っている方 708名  
(重度A・A1・A2 250名、中度B1 229名、軽度B2・B 229名)

・割合  
療育手帳保持者／大田原市の人口

708人 / 72,899人 ⇒ 市の人口の約1% が療育手帳保持者

## \*「ふりがな」について\*

このチラシの漢字とカタカナには「ふりがな」が振ってあります。

知的障がいのある方の中には漢字が読めない、漢字が苦手な方が多く、すべての漢字にふりがなを振っています。